

## 【56】 雪と桜田門外の変

日本史に残る幕末の大事件、" 桜田門の変 "は、江戸幕府の大老、現代で云えば総理大臣に相当する役目を担っていた、彦根藩主の井伊直弼が、藩邸から江戸城へ登城する途中、今も残る江戸城の“ 桜田門 “の手前で襲撃され、暗殺された事件です。

安政 7 年 3 月 3 日の午前 9 時頃のことで、前日からの雪が 20cm くらい積っており、雪の少ない江戸では珍しいことでした。

上記の日付は、もちろん旧暦のことで、新暦でいうと 1860 年 3 月 24 日に相当し、春分の日前後で温暖化の進んだ今日では、雪どころか桜が咲くか咲かないかと予想がやかましい時期ですが、江戸時代でも 3 月 3 日、雛祭り（上巳の節句）の頃の雪というのは滅多に無いことでした。

雛祭りという目出度い日に、白い雪景色の中での血だらけの殺伐とした事件というのがドラマチックで、事件の政治的意味を超えて多くの物語や芝居に描かれ、現代でも映画やテレビドラマになるのです。

忠臣蔵の旧暦 12 月 14 日の討ち入りは、新暦 1 月 30 日のことだから江戸の雪としては珍しくないという話しを、1 月のこの欄でさせてもらいましたが、旧暦 3 月 3 日の雪は珍しいのです。

江戸の大事件と雪のことを詮索していたら、現代の東京でも雪の降る時の大事件があるのに気付きました。

そう、昭和 11 年 2 月 26 日(1936 年) の失敗した反乱型軍事クーデターの "2・26 事件"です。雪の降り積った東京の都心部で 1400 人の反乱軍が暴れたのが、背景の雪によりその事件性や政治性を超えた不思議な感覚を引き起こし、ドラマ的になるのです。

それにしても、江戸・東京には、赤穂浪士の討ち入り、桜田門外の変、2・26 事件と雪を舞台にして歴史的に大きな事件があったわけですが、何か理由があるのでしょうかね。